様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出	第１学年 第２学年 第３学年	数学・731 数学・831 数学・931	中学数学１ 中学数学２ 中学数学３
取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　数と式 　第１学年では、2 種類のテーブルに並べるイスの合計を表した等式に数を代入して両辺を比べる活動、第２学年では、19 人が 3 人がけの座席と 2 人がけの座席に座るときのそれぞれの列数を求める方程式を立てて解を調べる活動、第 3 学年では、長方形の土地の面積とそこに作る道の幅の関係を表した方程式を立てて数を代入して解く活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　図形 　第１学年では、合同な図形を敷き詰めて描かれた模様から 2 つの図形に着目して移動の方法を考える活動、第２学年では、幅の異なる 2 本のテープの重なった部分の図形の性質を調べる活動、第 3 学年では、直接には測定することが困難な樹木の高さを相似な図形の性質を利用して求める活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　関数 　第１学年では、窓を開けた部分の横の長さと面積などの伴って変わる 2 つの量の関係を調べる活動、第 2 学年では、5 ㎝の高さまで水が入っている水槽に水を入れた時間と水位の変化をまとめた表から式を考える活動、第 3 学年では、斜面を転がるボールの転がった距離と転がり始めてからの時間の関係について、表を用いて調べる活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　資料の活用 　第１学年では、クラスの人たちの通学時間や家から学校までの距離の資料を表やグラフに整理して考える活動、第 2 学年では、さいころの目の出方など不確かな事象が起こり得る場合の数を起こりやすさの程度を基に考える活動、第 3 学年では、袋の中に入っている白いビーズの個数を、無作為に取り出したビーズの個数から推測する活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 　第１学年では、数直線を用いて 2 数の和を求める活動、第２学年では、連立方程式を使って 2 種類の品物の数を求める活動、第 3 学年では、根号内の数をできるだけ簡単にする活動など、補充的な学習活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 　第１学年では、2 つの数量の関係について等号を使った式で表す活動の後に、数量を文字で表した方程式を解く活動を取り扱い、第 2 学年では、2 直線が交わったときにできる角を調べる活動の後に、辺や角のどれを等しくすれば 2 つの三角形が合同になるかを考える活動を取り扱い、第 3 学年では、円周角の定理などを使って図形の性質を証明する活動の後に、直角三角形の辺を１辺とする三角形の面積の関係を調べる活動を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量については、次のようになっている。 　第１学年～「数と式」は 118 ページ、「図形」は 74 ページ、「関数」は 36 ページ、「資料の活用」は 24 ページであり、総ページは 309 ページで、前回より約 6%増となっている。 　第２学年～「数と式」は 56 ページ、「図形」は 76 ページ、「関数」は 38 ページ、「資料の活用」は 20 ページであり、総ページは 247 ページで、前回より約 5%増となっている。 　第３学年～「数と式」は 88 ページ、「図形」は 92 ページ、「関数」は 32 ページ、「資料の活用」は 16 ページであり、総ページは 293 ページで、前回より約 13%増となっている。			
使用上の配慮等	○　本文中に学習したことのよさを考えさせる場面や、章末に学習の感想を書かせる場面を設ける(全学年)とともに、巻末に、授業で切り取ったり直接書き込んだりして活用できるような作業用の厚紙を設ける(全学年)など、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　既習事項で定着していない内容を前のページで確認できる「もどって確認」を設けたり(全学年)、本文中に、生徒の興味・関心に応じて取り組むことができる「チャレンジコーナー」などを設けたり(全学年)するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　本文中に、問題ごとに観点別学習状況評価の各観点を示し、自己評価できるようにした「章の問題」を設定したり(全学年)、巻末の「小学算数のまとめ」において、中学校数学との系統性について分かるように内容を示したり(第１学年)するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道と関連のある教材は,「旭山動物園の写真」など、9 箇所取り上げられている。 ○　判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字を工夫するなど、カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応を考慮した構成になっている。 ○　学習内容の系統性を考慮し、小学校算数で学習してきた数学的な考え方を中学校数学においても活用し、定着を図ることができるよう配慮されている。			